

1. 授業の実際

(1) 単元名 体育理論「スポーツと社会性」

(2) 本時の目標 ・チームメイトのことを考え、とりやすいパスを心がけよう。(関心・意欲・態度)

(3) 本時の展開 (5 / 6)

過程	学習内容・学習活動	教師の指導・支援 (◇評価)
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ○集合・整列・準備体操 ○号令・健康観察 ○本時の内容と目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○突き指等、事故の無いように入念に体操させる。正しく体操が出来ていない時は、個別に助言をする。
8分	<p>(目標) チームメイトがとりやすいパスを工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1分間シュートチャレンジ ・車いすに座ってシュート ・ペアのリバウンド対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○注意事項を伝え、前回の自分を超えられるように、ペアの生徒と声掛け合いながら挑戦するように声をかける。
なか	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィングマン有りの試合 ・1チーム5～6人のチーム編成とする。 ・1試合前後半4分ずつ。間に1分30秒間作戦タイムをとる。 *ハーフタイム時 ホワイトボードをウィングマンが準備し、チームでの反省やよかった内容について整理し、次の試合に入れるようにする。 ・車いす選手4対4、ウィングマン選手2対2でゲームを行う。・ウィングマン選手は自分の担当エリア内で味方車いす選手へパスを行うことができる。ボールを持って移動またはドリブルはできない。 ・ゴールは、女子：ネット、ボード、リングに当たれば1点。ゴールに入った場合は2点。男子：2点。 	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめとおわりの挨拶は、確実に行い、時間の意識を持たせる。 ◆チームメイトがとりやすいパス考えて、パスをしたり声をかけたりしている。【関心】 ○審判・得点も生徒が務め、自分たちでゲームを運営できるように促す。 ○味方がとりやすいパスやシュートをしやすい位置どりなど、目標に沿う動きは積極的に褒めていく。 ○ウィングマン選手を積極的に利用し、車いす選手が一箇所に固まらないように声かけをする。 ○ハーフタイムに巡視をする。
37分	<p><車いす選手のルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回漕いだら、1回ボールをつかなくてはならない。 ・故意なコンタクトプレーは禁止。 ・ベルトを装着し、脚を定位置に置く <p><ウィングマン選手のルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められたエリア内でボールを受け、味方にパスすることができる。 ・ドリブルや、ボールを持って移動することはできない。(パスを受けたら、その場でパスをする。) ・自分の担当エリア内にいる車いす選手が転倒した場合、コート内に入って、起き上がることを手助けすることができる。 	
おわり	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめ ・振りかえりを学習カードに記入・発表 ○健康観察・挨拶・片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○巡視し、効果的な意見を拾い、発表を促す。

2. 成果と課題

(1) 車いすを使用することで、男女の運動能力差の軽減になるとともに、互いを助けながら運動に取り組む様子が見られた。

(2) 単元として体育理論で取り扱ったが、競技力が向上するにつれて、勝敗にこだわる様子が見られた。車いすで何を伝えていくかは、さまざまな意見があった。